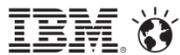


クラウド・コンピューティング 戦略を策定する

シリーズ第 1 回: クラウド採用へのロードマップ



目次

- 1 概要
- 2 クラウド・コンピューティングによるビジネス変革の可能性の評価
- 2 クラウド・コンピューティング戦略立案の検討事項
- 9 クラウドを活用した戦略的優位性の獲得
- 10 IBM をお勧めする理由
- 11 クラウド・コンピューティング戦略を策定する: ホワイトペーパー・シリーズの第 1 回

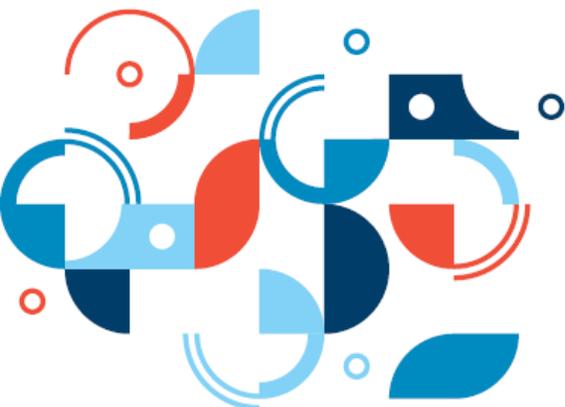
概要

最高経営責任者（CEO）は、ビジネスの成功に影響を及ぼす第一の要因として、初めて「テクノロジー」を挙げています。¹ 彼らにとってテクノロジーは、ビジネス戦略の実行に必要なインフラストラクチャーの単なる一部ではありません。テクノロジーこそが、まったく新たな戦略を切り開くのです。彼らは、継続的なイノベーションを引き起こすテクノロジーなしでは生き残れないと思っています。その結果、最高情報責任者（CIO）は、自身がサービスの提供者から戦略の実現者へと変貌する中で、自らの優先事項の大幅な転換を予見しています。

ビジネス部門や IT 部門の幹部の 90 パーセントが、現在の計画や 3 カ年計画にクラウド・コンピューティングを組み込んでいます。² クラウドの登場をきっかけとして、ビジネス、IT の両領域で継続的にイノベーションが起きていることを考えれば、これは驚くことではありません。IBM® グローバル・テクノロジー・サービスは、数多くのお客様に対して、クラウド戦略の策定を行い、重要なビジネス変革をサポートしてきました。こうした取り組みの中で、お客様はしばしば次のような疑問を口にします。

- クラウド・コンピューティングの到来に対して、どのような準備をするべきか
- クラウド・コンピューティング戦略を策定するうえで、何を考慮に入れるべきか
- 戦略的優位性の獲得にクラウドをどう活用するべきか

当ホワイトペーパーでは、クラウド・コンピューティングへの事前対応と効果的なアプローチを検討するにあたり、その背景と指針を提供し、その過程で上記の重要な疑問点にどう対応していくのかを考察していきます。



クラウド・コンピューティングによる ビジネス変革の可能性の評価

単に「クラウド」と呼ばれることも多いクラウド・コンピューティングとは、動的に拡張可能で、かつ多くの場合仮想化されるコンピューティング・リソース（アプリケーションからデータセンターに至るまでのすべてのリソース）を、柔軟な従量課金制でインターネット（パブリック・クラウド）またはイントラネット（プライベート・クラウド）経由でサービスとして提供することです。IT の観点からすると、クラウド・コンピューティングは、以下を活用するインフラストラクチャー管理 / サービス・デリバリー・アプローチを提供します。

- 仮想化されたリソース
- 1 つの巨大なリソースとして管理する能力
- 柔軟に拡大縮小が可能なサービス提供

「クラウドは、テクノロジーのゲーム・チェンジャーとして広く認識されていますが、事業にイノベーションを起こす力はまだ開拓されていないも同然です。実際、クラウドはビジネス価値を創出し、新たなプラットフォームを提供することで、根本から市場勢力図を塗り替える力を秘めています」³

この観点から、クラウド・コンピューティングは以下を実現するユーザー・エクスペリエンス/ビジネス・モデルを提供します。

- 標準化されたセルフ・サービスで効率化を実現
- 迅速にプロビジョニングされるサービスで俊敏性を実現
- 柔軟な価格設定でイノベーションを実現

最近 IBM が 800 名以上のクラウド意思決定者を対象に行った調査では、クラウドを活用して競争優位性を獲得している企業を「ベースセッター（先導者）」と定義しました。このような企業は、クラウドを活用してビジネス・モデルを再考し、洞察に基づいてよりの確な決断を下し、新たな方法で顧客に対応することで、ビジネス成果を生み出しています。ベースセッターは、同業者に比べてほぼ 2 倍の収益成長率、およそ 2.5 倍の粗利益を達成しています。⁴

ベースセッターは、クラウドに関するビジネス的観点と IT の観点の統合は必然であると理解しています。確かにクラウドは、セキュリティが充実していて、ほとんど境界のない IT を実現できます。しかし、何よりもクラウドは、製品やサービスに迅速にイノベーションを起こすことができるのです。⁵ クラウド・テクノロジーがビジネスと IT の関心を一点に集めるように成熟を遂げるにつれ、クラウドが企業にもたらす意味を評価、あるいは再評価する新たな機会が生まれています。

クラウド・コンピューティング戦略立案の 検討事項

クラウド・コンピューティングの戦略を策定することで、構想を成功へと導くロードマップが確立されます。しかし、まず企業はクラウドに対する共通の定義と視点において 1 つにまとめる必要があります。例えば、次の 2 つの定義を考えてみてください。

- クラウドとは、IT サービスの提供を工業化したものです。クラウドは、セルフ・サービス、規模の経済、柔軟な価格設定モデル、ワークロード・ベースの IT リソース・プロビジョニングを使用した、サービスの自動化、仮想化、標準化によって実現されるコンシューマー向けインターネット・サービスから着想を得た、新しい消費・提供モデルです。
- クラウド・コンピューティングとは、管理に要する労力やサービス提供者とのやり取りが少なく、迅速にプロビジョニングしたりリリースしたりできる構成可能なリソース（ネットワーク、サーバー、ストレージ、アプリケーション、サービスなど）の共有プールに、ネットワークを通じて必要なときに容易にアクセスできるようにするためのモデルです。

どちらの定義も正確なクラウド像を描いています。ただ、異なる視点をを用いているだけです。企業独自の視点次第でクラウドの定義は異なり、多様としかいいようがないクラウドの特質が、それぞれのビジョンに対し莫大なチャンスをもたらします。クラウドがあれば、ほぼ誰でも開発者になれ、あらゆる優れたアイデアがアプリケーションになり、実質的に誰もがビジネスに影響を及ぼし、(セキュリティが許せば) 情報にアクセスでき、どこでもプログラムを実行することができるといっても過言ではありません。

このような幅広い要素を考えれば、クラウドの柔軟性をどう活用してビジネスおよび戦略目標を達成するのか、さらにはクラウドがこれらの目標をどう再定義できるのかさえ判断する必要があります。課題は、それぞれの企業にふさわしいクラウドの定義を見いだすことです。

視点と定義について合意に達したら、次のステップでは必然的に「クラウド (雲) の中にある」チャンスが具体的なビジネス価値をいかに増大させるかについて検討することになります。チャンスの発見は、フロント・ガラスの曇りを取り除くようなものです。進むべき道が見えるようになり、クラウド機能と希望するビジネス成果をいかに連携させるかを判断できるようになります。特定されたチャンスは、クラウド・コンピューティング戦略の中心に据えられ、以下の要件提示を行います。

役割

どのような役割を想定しているのでしょうか。例えば、**お客様**がプライベート・クラウド環境のユーザーであれば、お客様のクラウド・サービス・サプライヤーは通常お客様の企業です。パブリック・クラウドのユーザーであれば、外部のプロバイダーと提携している可能性が最も高いと考えられます。その場合、パフォーマンスやパブリック・クラウド・プロバイダーとのやり取りを管理する、インテグレーター役を設定する必要があるでしょう。

多くの場合、プライベート・クラウド対パブリック・クラウドの問題は、どちらかに決めるということではありません。多くの企業では、両方、すなわちハイブリッドと呼ばれるクラウド環境を選択します。このような環境では、アプリケーションを最も適用しやすい技術インフラストラクチャーに展開することもできますが、一方でソーシング・シナリオが複雑化する可能性もあります (5 ページにあるハイブリッド・クラウドに関する補足説明を参照)。

その結果、**インテグレーター**役の重要性は高まる一方ですが、これは外部から提供されるクラウド・サービスに対する説明責任を負うためです。この役割には、ビジネス要件と技術要件をサービス・プロバイダーに伝えて明確に説明できるだけの IT リテラシーが求められます。実質的にこのインテグレーターが、企業の調整役としてあらゆるサード・パーティーのサプライヤーに対応することになります。

クラウドをサービスとして外部に提供できるだけの資産を有し、その資産がサービス・レイヤーに応じて変動できるものであれば、お客様は**クラウド・サービス・プロバイダー (CSP)**と見なされます。そして、プライベート・クラウド・サービスやパブリック・クラウド・サービスを社内に提供することもできれば、他企業へ CSP としてサービス提供することもできます。CSP は多くの場合、ハイブリッド・コンピューティング・モデルで重要なサービス・サプライヤーとなります。

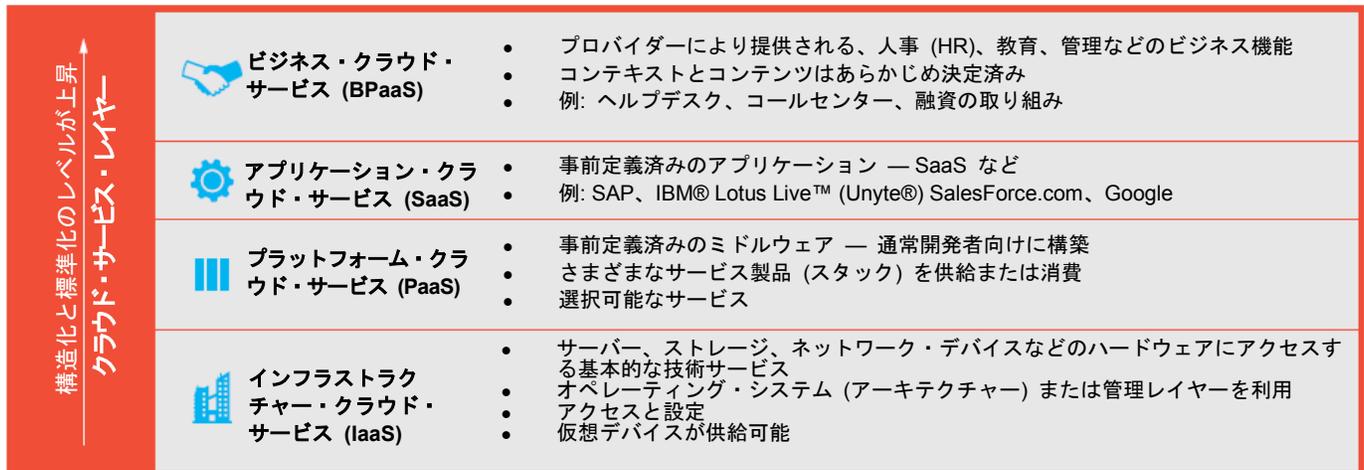


図 1. クラウド・サービス・レイヤーの特性

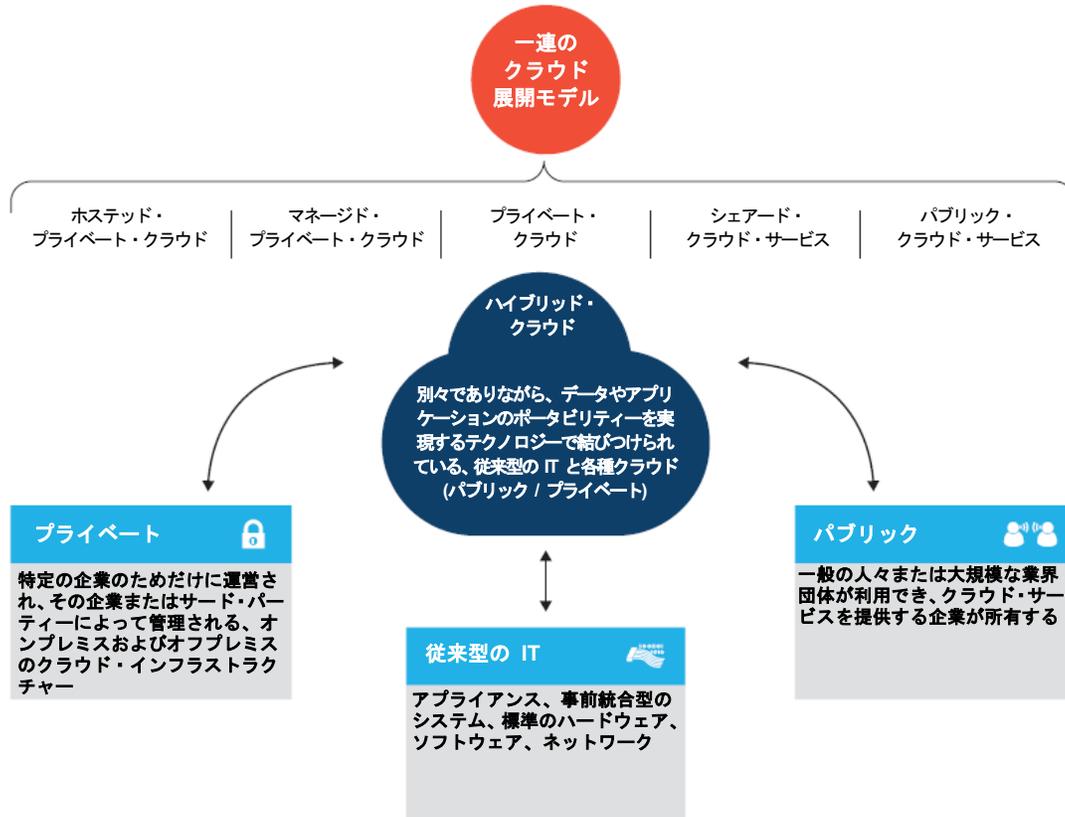


図 2. 一連のクラウド展開モデル

サービスの種類と展開モデル

会社が必要とするサービスの種類と展開モデルを決定する必要があります。これらはすでにおなじみの概念ですが、図 1 と図 2 に概要をまとめて示します。

影響範囲

クラウドの枠組みを開発するに当たっては、クラウド・サービスの主要な利害関係者を考慮に入れる必要があります。IT 部門でしょうか。特定の部署や事業部門 (LoB) の従業員でしょうか。それとも、共通の利益を追求する企業や業界の下に集結した拡張コミュニティの住人でしょうか。

企業がこの点について判断する際、まずは IT 部門に注目することでしょう。しかし、最近の調査によれば、財務、セールス、製品開発をはじめとするあらゆるビジネス・リーダーが、クラウドで実現されるビジネス価値にますます興味を抱くようになってきました。事業の成功に対するクラウドの重要性を尋ねられると、目下のところ LoB の回答者の 34 パーセント、IT 部門の 49 パーセントが、クラウドは極めて重要であると回答しています。しかし、2016 年までには、ビジネス・ユーザーにとってクラウドの戦略的な重要性は 34 パーセントから 72 パーセントへと倍増すると見込まれており、これは IT 部門の 58 パーセントを超える勢いです。⁶

コンポーザブル・インフラストラクチャー: ハイブリッド・クラウドを未来に織り込む

これからはコンポーザブル・ビジネスの時代です。そこでは、プロセスの再考と革新を絶え間なく行い、リアルタイムで得られる実行可能な洞察により、的確な意思決定を行い、市場投入期間を短縮し、企業横断的にプロセス統一を図ります。そして、コンポーザブル・ビジネスには、コンポーザブル・インフラストラクチャーが必要です。

多くの企業は、単純にパブリック・クラウドまたはプライベート・クラウドを選択するのではなく、両方の環境を網羅する、柔軟なエコシステムを設計しています。いわゆるハイブリッド・クラウドです。ハイブリッド・クラウドは、複数のソース（プライベート・クラウド、パブリック・クラウド、従来型の IT など）からのサービスを安全に提供することで、次のいずれかまたはすべてを可能にします。

- アプリケーション、データ、サービスの統合
- ワークロードの構成、オーケストレーション、管理
- データとアプリケーションのポータビリティ

ある調査によると、2015 年までに企業の 68 パーセントが何らかのハイブリッド・クラウド・モデルを採用し、2013 年に比べてハイブリッドの採用率が 19 パーセント上昇すると見込まれています。⁷

このハイブリッド・クラウドの推進は、驚くことではありません。企業は最善の成果をあげようとマルチソーシング・モデルを推進しており、クラウドの展開では稼働中のモデルが混合し続けるでしょう。企業はそれぞれの事情からワークロードをオンプレミスやオフプレミスで扱っていますが、顧客や業界とのやり取りなど、エンゲージメントやコラボレーションを促進するアプリケーションには、パブリック・クラウドの拡張性と迅速なプロビジョニング機能が非常に良く適合します。これらは、Systems of Engagement (協働のための情報活用システム) として知られており、従業員の個人情報や極秘の財務データなどを扱う Systems of Record (定型業務処理システム) は、通常プライベート・クラウドの企業ファイアウォールの内側に存在しています。統合ハイブリッド・クラウド環境を構築することで、企業は両方のシナリオがもたらす恩恵を受用することができ、アプリケーションと展開モデルを幅広いハイブリッド環境と機能に連携させることで、企業はアクセスとセキュリティの重要なバランスを適切に保つことができます。

クラウド・コンピューティングは、従来型の IT デリバリーの代替品ではなく、むしろ従来型を拡張する、より構造化された選択肢として考えるべきです。多くの場合、この 2 つは構造と柔軟性の「チェック・アンド・バランス」を行うことで互いに補完しあい、必要とするコンポーザブル・インフラストラクチャーの構築を支援します。

LoB と IT の利益が一致することで、このような領域はもはや競争する優先順位の下、個別のサイロ内で機能するのではなく、むしろ企業の全体的なロードマップと戦略において互いに協力し合うようになるでしょう。ビジネスと IT はそれぞれの理由と目的でクラウドへ到達しますが、クラウドの全体的な価値、すなわち境界のない IT デリバリー機能、速度と柔軟性の向上、新たなビジネス価値の創造という観点では、その役割は同じです。どちらの役割も、IT の再考とビジネスの改革は密接に関係していることを表しています。

ガバナンス、コントロール、設計、運用に関する検討事項

ガバナンスは幅広い概念です。これには、企業が IT サービスを獲得するためのポリシー、手順、基準、ならびに展開されたサービスの設計、実装、テスト、使用、監視を管理、監督することが含まれます。

コンプライアンスとリスク管理は、従来型の IT システムでは常に重要なガバナンス・プロセスであり、クラウド展開された IT ソリューションにおいても同様に欠くことはできません。クラウドで異なるのは、基準の適用範囲が拡張される点です。多くの場合、クラウド・サービスが IT 部門の外から調達されることを考えれば、コントロールの欠如からプライバシー・リスク、セキュリティー・リスク、法的リスク、監視リスクの観点から企業が危険にさらされる可能性が高いです。ガバナンスが明確に確立されていない場合、クラウド「サイロ」または「クラウド・クラッター (混乱)」という結果に終わりがちです。

クラウド・コンピューティング戦略には、**堅固なクラウド・ガバナンス戦略と枠組み**がその一環として導入されている必要があります。クラウド・ガバナンスには以下が含まれます。

- 利害関係者の決定権の確立 – ソリューションを調達する権限のある役割や利害関係者に求められる関与のレベルを決定するなど
- クラウドの意思決定プロセスの策定
- クラウド・プロバイダーを管理するポリシーの確立と施行

最後に、クラウド・コンピューティングには、現在多くの企業に欠けている**設計、運用能力**が求められます。この要件は数も多く、しばしば困難を伴います。

- 「ポスト・シェアード・サービス」のガバナンス・モデル
- 「ジャスト・イン・タイム」のソーシングと調達プロセス
- IT サービスのデリバリーに関するサービス指向フレームワーク
- 統合イベント、構成、変更、リリース、キャパシティー、サービス・レベル管理

- サービス自動化ツールでサポートされるサービス・カタログおよび構成管理データベース (CMDB)
- 課金、評価、請求、サブスクリプションのサポート
- オファリング管理
- 仮想化・標準化されたインフラストラクチャー
- プール可能な管理インフラストラクチャーへの投資を正当化する、リソースのクリティカル・マス
- クラウドの消費モードに応じて調整されたソフトウェア・ライセンス契約

効果的なガバナンス・プログラムの確立は、役割、サービス、展開モデル、利害関係者を幅広く考慮することを意味します。このように幅広く検討を行うことで、企業は特定の、さらには特殊な IT 要件を満たす柔軟性を獲得できます。しかし、この柔軟性により、最適な IT デリバリー・サービスのポートフォリオの組み立てには、注意深いアプローチが必要となります。

例えば、不必要に複雑にすることで過度にプロセスに負荷をかけることなく、コンプライアンス、達成可能な SLA、効果的なセキュリティーを確保できる適切なレベルの構造を、どのように適用すればいいのでしょうか。皮肉にも、柔軟性がもたらすメリットを達成するには、その柔軟性と構造のバランスを取ることが要求されます。クラウド・コンピューティングは、従来型の IT デリバリーの代替品ではなく、むしろ従来型を拡張する、より構造化された選択肢として考えるべきです。多くの場合、この 2 つは構造と柔軟性の「チェック・アンド・バランス」を行うことで互いに補完しあいます。

既存サービス、そして新サービスの獲得に対するガバナンス・アプローチを開発する時、この新たに広がるデリバリーの可能性を網羅する斬新な視点で各サービスを評価する必要がありますが出てくるでしょう。十分に開発されたエンタープライズ・アーキテクチャーに適合しないソリューションは、高価で互換性のない IT サービスのポートフォリオになりかねません。これは、標準コンポーネントを統合し、柔軟性と最小コストのデリバリーを実現するソリューションを設計するという、クラウドが目指すものとは正反対です。

クラウド展開に最適なワークロードの決定

クラウドの準備が整ったら、どのワークロード (つまり、アプリケーションを構成する機能、または IT 機能とサービスの組み合わせ) を移行するかについて評価を行う必要があります。

クラウドに対応できる可能性を持つサービスは、概して以下の 3 カテゴリーから生じる傾向があります。

- **既存のアプリケーション**は、クラウドに対する向き不向き分析を行うことができます。図 3 を参照ください。さらに、エンタープライズ・リソース・プランニング (ERP)、サプライチェーン、カスタマー・リレーションシップ・マネジメント (CRM) などのベンダー由来のアプリケーションは、クラウド化を促進する機能がプロバイダーによってどの程度組み込まれているかを入念に調べる必要があります。
- **今後、自社で開発するアプリケーション**は、適切にクラウドを意識して構築されたエンタープライズ・アーキテクチャーと、クラウド展開に向けて特別に設計された開発基準からメリットを得ることができます。
- **今後、ベンダーから供給されるソリューション**は、ベンダーが実証する機能に基づき評価を行う必要があります。

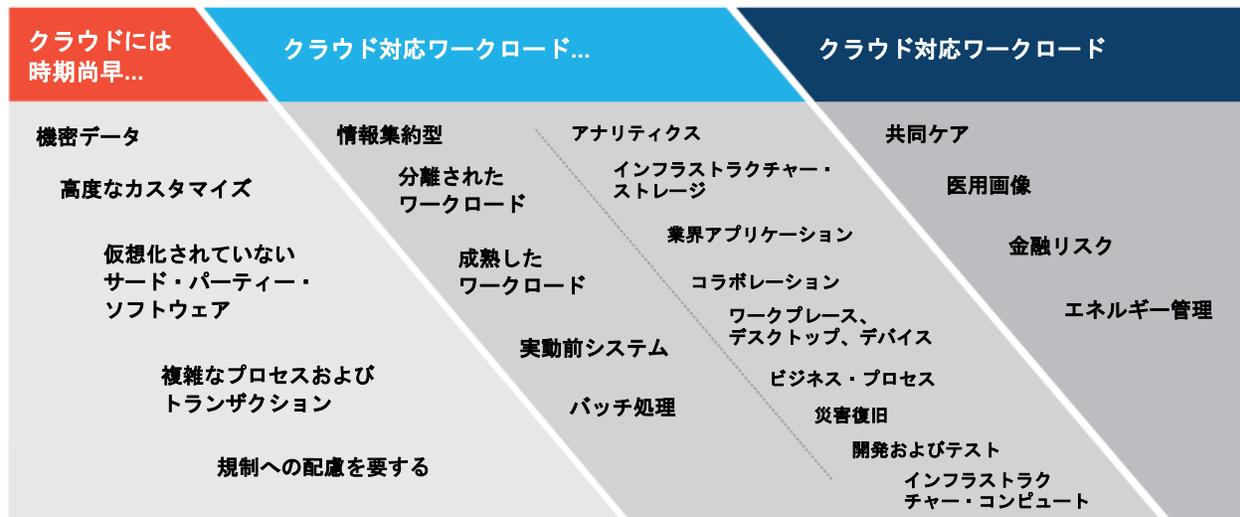


図 3. クラウド適応性についてのアプリケーション・ポートフォリオ分析の目標と基準

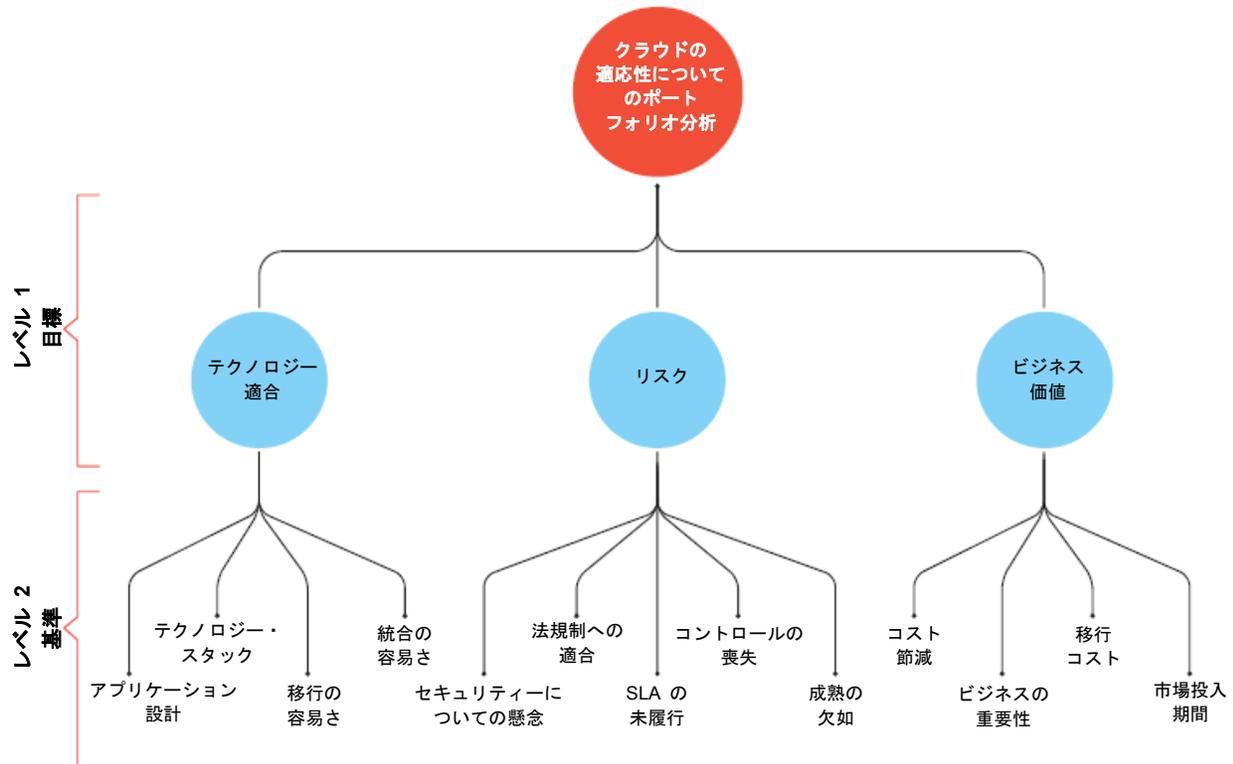


図 4. ワークロードが牽引するクラウド採用

高レベルでは、候補となるワークロードとそのクラウド採用の実現可能性を比較する際、ビジネス価値を中心に初期の検討が行われます。これらのワークロードをクラウドへ移すコスト上の真のメリットは何か。そこから、そのアプリケーションの技術的特性を評価する必要があります。そのワークロードをクラウドへと移行することは技術的に実行可能か。その移行は、エコシステムにどう影響するか。そしてもちろん、リスクに対する懸念についても検討する必要があります(図 4 を参照)。

たとえクラウド環境が計り知れない柔軟性を見せるとしても、あらゆるワークロードがクラウド展開に適しているわけではありません。同様に、実際クラウドによって実現した新たなワークロードについても検討した方がいいかもしれません。このようなワークロードはその根本的な性質から、企業のビジネス価値とイノベーションを大きく強化できるでしょう。これには、大規模かつ低コストのアナリティクス、コラボレーティブ・ビジネス・ネットワーク、業界規模の「スマート」なアプリケーションなどが多数含まれます。

クラウドを活用した戦略的優位性の獲得

当ホワイトペーパーの最初の方で、クラウドを使用してライバル企業をしのぐ競争上の優位性を獲得する企業をペースセッターと説明しました。そこで述べたように、ペースセッターは、同業者に比べてほぼ 2 倍の収益成長率、およそ 2.5 倍の粗利益を達成しています。⁸ 実際、ペースセッターとチェイサー（クラウドに慎重で採用の初期段階にいる企業）を比較した調査では、ペースセッターのクラウドの使用方法は劇的に分岐していることがわかりました。⁹

- ペースセッターは、クラウドを使用して顧客関係を再構築できる可能性がチェイサーより 136 パーセントも高い。
- ペースセッターは、アナリティクスをクラウド経由で積極的に活用して洞察を得る可能性がチェイサーより 170 パーセントも高い。
- ペースセッターは、クラウドのエコシステム内にある専門知識を見つけて活用する可能性がチェイサーより 79 パーセントも高い。

このレベルのパフォーマンスを達成することは、クラウドが単なるサービス・デリバリー・プラットフォームにとどまらないことを意味します。これは、まったく新しいビジネス・モデルなのです。クラウドを定義し、クラウド戦略を策定する際、下記に挙げる 4 つの目的についてブレインストーミングを行うことは、生産性の高い訓練となり、クラウドを活用していかに戦略的なメリットを獲得するかに関する変革のアイデアを創出できます。

- 新しいビジネス・モデルや顧客関係の確立
- ビジネスの俊敏性と柔軟性の向上
- 充実したセキュリティーとシームレスな IT の実現
- 製品やサービスのイノベーションの迅速な提供の実現

IBM Workload Transformation Analysis for Cloud

IBM Workload Transformation Analysis for Cloud は、IBM 研究所が開発した特許申請中の分析ツールを使用して、ワークロード（アプリケーション・システムと IT システム、行動方針、およびそれらの関係性を含む）の定量分析を行います。このツールは、クラウドへの移行に適したワークロードに優先順位をつけ、リスト化して提供し、また運用コストと移行の難易度の比較も行います。

IBM の定評ある方法論を、この堅固な分析ツールと並行して使うことで、クラウドへの移行に最適なワークロードを知識に基づき決定するために必要な詳細情報を提供します。手作業でデータの分析を行う場合に比べ、分析時間を最大 66 パーセント短縮できます。¹⁰ これは、クラウド・テクノロジー実装の迅速化につながり、最終的にはコストの削減とサービス・デリバリーの質の向上につながります。まとめると、このツールで実行できることは以下の通りです。

- ビジネスと IT の優先順位に基づき、企業にとって最も適したクラウド・モデルを判断する
- クラウド展開に最も適したワークロードをより迅速に決定する
- IT 能力を評価し、クラウドの目標達成に求められる要素を特定する
- クラウドの目的を達成する、実行可能なロードマップを策定する
- IBM の経験と分析力を活用し、クラウドの青写真の有効性を検証する

IBM Workload Transformation Analysis for Cloud に関する詳細については、次の Web サイトをご覧ください。

ibm.com/services/us/en/it-services/cloud-services/workload-transformation-analysis-for-cloud/

IBM をお勧めする理由

クラウド・コンピューティングの堅実な戦略は、新規ビジネス価値を生み出す可能性のある革新的な IT サービスを提供する上で非常に重要であり、IBM Cloud Advisory Services がそのお役に立ちます。事実、「IDC MarketScape: Worldwide Cloud Professional Services, 2013 Vendor Analysis」において、IBM はリーダー企業に選出されています。市場調査会社の IDC が実施した調査、「2013 Global Cloud Professional Services Buyer Perception Survey」によれば、IBM は機能や業界に関する洞察およびコンピテンシーの提供とリソースのグローバルな活用において、お客様から最高の評価を獲得しています。¹¹

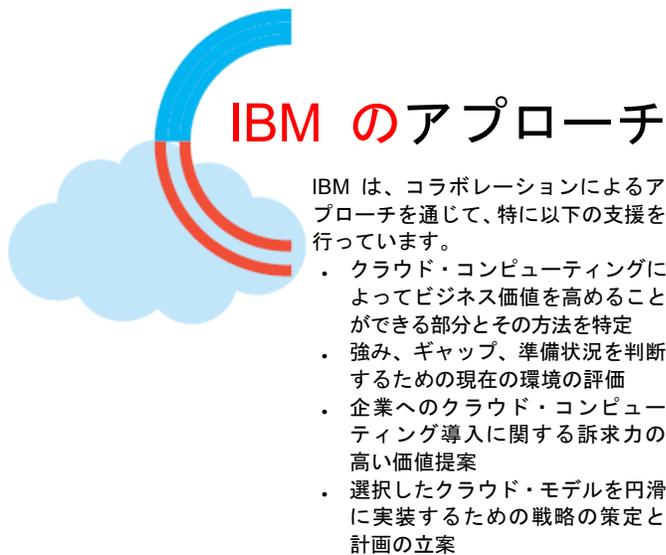


図 5: IBM Cloud Advisory Services は、円滑なクラウド実装を通じて、お客様のビジネス価値実現への行程を支援します。

IBM Cloud Advisory Services: 独自の価値提案

- 「IDC MarketScape: Worldwide Cloud Professional Services, 2013 Vendor Analysis」でリーダーに選出¹² (IDC の「2013 Global Cloud Professional Services Buyer Perception Survey」)
- 実証済みのツール、評価、ワークショップ (独自のクラウド採用フレームワークとワークロード分析ツールなど) で、ビジネスへの影響を測定
- 深いビジネス洞察および技術アーキテクチャー、データセンターとデータセンター戦略に関する専門知識
- オープン・スタンダード・ベースのアプローチ
- お客様クラウドへの関与、技術創生プロジェクトから得た経験
- 構造化されたアーキテクチャー・アプローチ
- 自社の変革から得た経験
- 業界でも最大規模のシステム、ストレージ、ソフトウェア、サービスに関するポートフォリオによりお客様のビジネスに最適な組み合わせを選定
- 世界的に展開しているクラウド・コンピューティング・センターで実施される調査から得た洞察を提供
- 広範な特許取得でリーダーシップを発揮

IBM Cloud Advisory Services では、刻々と変化する今日の環境で他社と一線を画す優位性を、ビジネスに関する洞察、高度な調査、テクノロジーを織り交ぜながら、コラボレーションによるアプローチでお届けします。図 5 をご覧ください。

クラウドのコンサルティング、設計、実装における IBM の総合的なケイパビリティにより、戦略を実行へと移すことが可能になります。17 業界での専門知識および 170 カ国にまたがるグローバルな能力で、世界中のお客様がクラウドがもたらす新たなチャンスの恩恵を受けられるようお手伝いします。詳細については、次の Web サイトをご覧ください。

ibm.com/cloud-computing/jp/ja/

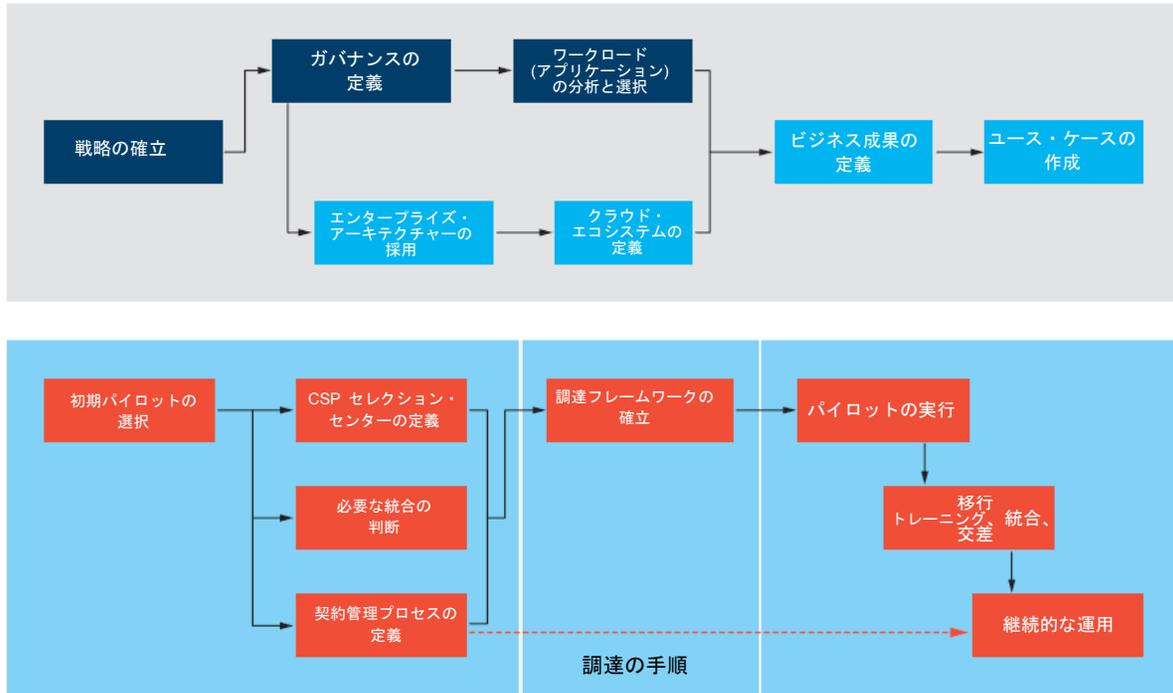


図 6. 本書は、ホワイトペーパー・シリーズ「クラウド採用へのロードマップ」の第 1 回です。ここでは、この例に示すようなクラウド採用ロードマップの作成に必要なステップを順を追って説明しています。

クラウド・コンピューティング戦略を策定する： ホワイトペーパー・シリーズの第 1 回

これで、ホワイトペーパー・シリーズ「クラウド採用へのロードマップ」の第 1 回を終了します。図 6 に示すように、これらのホワイトペーパーでは、概略的なロードマップに従って今後のクラウドの設計と実装を説明していきます。

- **第 1 回: クラウド・コンピューティング戦略を策定する** (<http://ibm.co/TXqLpE>) では、**濃い青色**で強調したステップを説明しています。

- **第 2 回: クラウドのエコシステムを定義する** (<http://ibm.co/WiOqm7>) では、**水色**で示されたトピックについて検討しています。
- **第 3 回: クラウド・サービス・プロバイダーとの関係を確立する** (<http://ibm.co/1k3alTy>) では、**オレンジ色**で強調した分野について説明しています。

これらのホワイトペーパーは単独 / シリーズのいずれでもお読みいただけます。

詳細情報

IBM Cloud Advisory Services の詳細については、日本 IBM 営業担当員にお問い合わせください。

著者について

Bob Freese は、IBM グローバル・テクノロジー・サービス Cloud Advisory Services グローバル・チームの認定コンサルタントです。IT 戦略コンサルティングの分野で 40 年以上の経験を持ち、ここ 7 年間はクライアントのクラウド戦略エンゲージメントの実施や世界中の IBM テクノロジー・コンサルタントの研修に従事しています。



© Copyright IBM Corporation 2014

日本アイ・ビー・エム株式会社

〒103-8510

東京都中央区日本橋箱崎町 19-21

Produced in Japan

February 2015

IBM、IBM ロゴ、および ibm.com は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、www.ibm.com/legal/copytrade.shtml をご覧ください。

本書の情報は最初の発行日の時点で得られるものであり、予告なしに変更される場合があります。すべての製品が、IBM が営業を行っているすべての国において利用可能なものではありません。

本書に含まれるパフォーマンス・データは、特定の動作および環境条件下で得られたものです。実際の結果は、異なる可能性があります。

本書に掲載されている情報は特定物として現存するままの状態を提供され、第三者の権利の不侵害の保証、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されています。IBM 製品は、IBM 所定の契約書の条項に基づき保証されます。

- ⁶ Under Cloud Cover: How leaders are accelerating competitive differentiation. 2 ページ。IBM Center for Applied Insights. 2013 年 10 月。 [ibm.com/ibmcai/globalcloudstudy](http://www.ibm.com/ibmcai/globalcloudstudy)
- ⁷ Brandon, Jonathan. "What's standing in the way of hybrid cloud?" Business Cloud News, 2013 年 7 月 8 日。 <http://www.businesscloudnews.com/2013/07/08/whats-standing-in-the-way-of-hybrid-cloud/>
- ⁸ Under Cloud Cover: How leaders are accelerating competitive differentiation, 3 ページ。IBM Center for Applied Insights. 2013 年 10 月。 [ibm.com/ibmcai/globalcloudstudy](http://www.ibm.com/ibmcai/globalcloudstudy)
- ⁹ Under Cloud Cover: How leaders are accelerating competitive differentiation, 4 ページ。IBM Center for Applied Insights. 2013 年 10 月。 [ibm.com/ibmcai/globalcloudstudy](http://www.ibm.com/ibmcai/globalcloudstudy)
- ¹⁰ IBM クライアント・エンゲージメントに基づくもので、実際の結果は異なる場合があります。
- ¹¹ Little, Gard, Rebecca Segal, and Chad Huston. IDC MarketScape: ワールドワイド・クラウド・プロフェッショナル・サービス, 2013 ベンダー・アナリシス, 2013 年 8 月, IDC #242401. http://idcdocserv.com/242401e_IBM
- ¹² Little, Gard, Rebecca Segal, and Chad Huston. IDC MarketScape: ワールドワイド・クラウド・プロフェッショナル・サービス, 2013 ベンダー・アナリシス, 2013 年 8 月, IDC #242401. http://idcdocserv.com/242401e_IBM

- ¹ 顧客価値の共創: グローバル経営層スタディーからの洞察, 5 ページ。IBM Institute for Business Value. 2013 年 10 月。 <http://www-935.ibm.com/services/us/en/c-suite/csuitestudy2013/>
- ² クラウドの真価: ビジネス・モデル・イノベーションの推進, 2 ページ。IBM Institute for Business Value. 2012 年 2 月。 <http://www-935.ibm.com/services/us/gbs/thoughtleadership/ibv-power-of-cloud.html>
- ³ クラウドの真価: ビジネス・モデル・イノベーションの推進, 1 ページ。IBM Institute for Business Value. 2012 年 2 月。 <http://www-935.ibm.com/services/us/gbs/thoughtleadership/ibv-power-of-cloud.html>
- ⁴ Under Cloud Cover: How leaders are accelerating competitive differentiation, 3 ページ。IBM Center for Applied Insights. 2013 年 10 月。 [ibm.com/smarterplanet/us/en/centerforappliedinsights/article/globalcloud.html](http://www.ibm.com/smarterplanet/us/en/centerforappliedinsights/article/globalcloud.html)
- ⁵ Under Cloud Cover: How leaders are accelerating competitive differentiation, 5 ページ。IBM Center for Applied Insights. 2013 年 10 月。 [ibm.com/smarterplanet/us/en/centerforappliedinsights/article/globalcloud.html](http://www.ibm.com/smarterplanet/us/en/centerforappliedinsights/article/globalcloud.html)



Please Recycle